長野経研 NEWS RELEASE 一般財団法人 長野経済研究所

2026年10月15日

最近の長野県経済の動向
（月例調査）

概　　要

全国景気※	緩やかに回復しているが、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある
長野県内景気	持ち直している
7月の生産動向	生産は持ち直している
8月の個人消費	大型小売店売上高は2カ月連続で前年を上回る
8月の公共投資	公共工事保証請負額は3カ月連続で前年を上回る
8月の住宅投資	新設住宅着工戸数は5カ月ぶりに前年を下回る
8月の雇用情勢	有効求人倍率は3カ月連続で前月を上回る

今後は、中東情勢の悪化に伴う資源価格上昇や供給面への影響について注視する必要がある

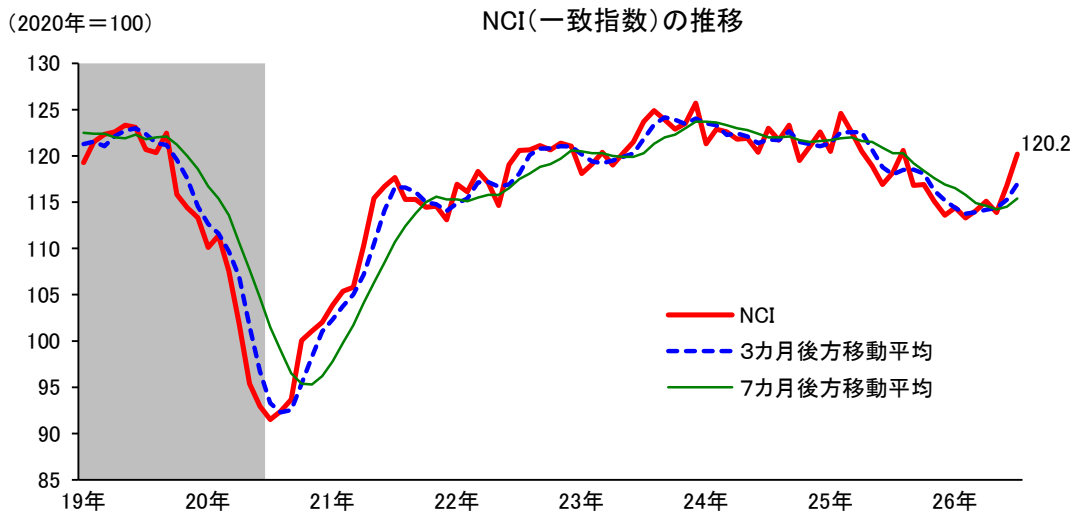
※内閣府「月例経済報告（2026年９月）」より

照会先
一般財団法人 長野経済研究所　調査部
担当　粂井、須田
電話　026-224-0501

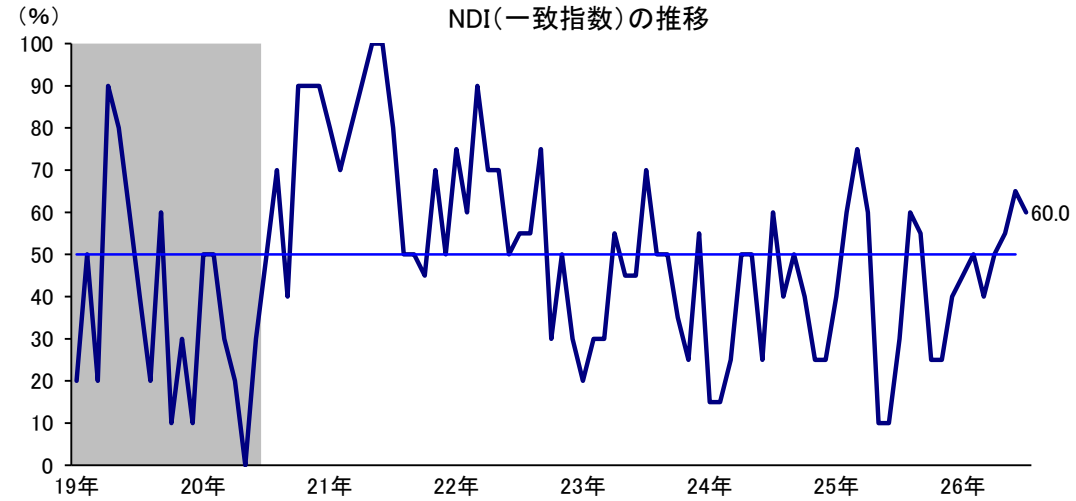
景気動向指数

・7月のNCI（一致指数）は、120.2と前月と比較し＋3.4ポイントとなった。3カ月後方移動平均は、同＋1.7ポイントと5カ月連続で上昇した。7カ月後方移動平均は、同＋0.9ポイントと2カ月連続で上昇した。これを機械的な基準に当てはめた結果、NCI（一致指数）は、上方への局面変化を示している。

・NDI（一致指数）は、60.0％となり、景気判断の分かれ目である50％を3カ月連続で上回った。



（資料）当研究所「長野県景気動向指数」
（注）1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ（量感）を示す
2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す



（資料）当研究所「長野県景気動向指数」
（注）1.NDIは長野県の景気の方向、波及度合いを示す
2.シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

生　産

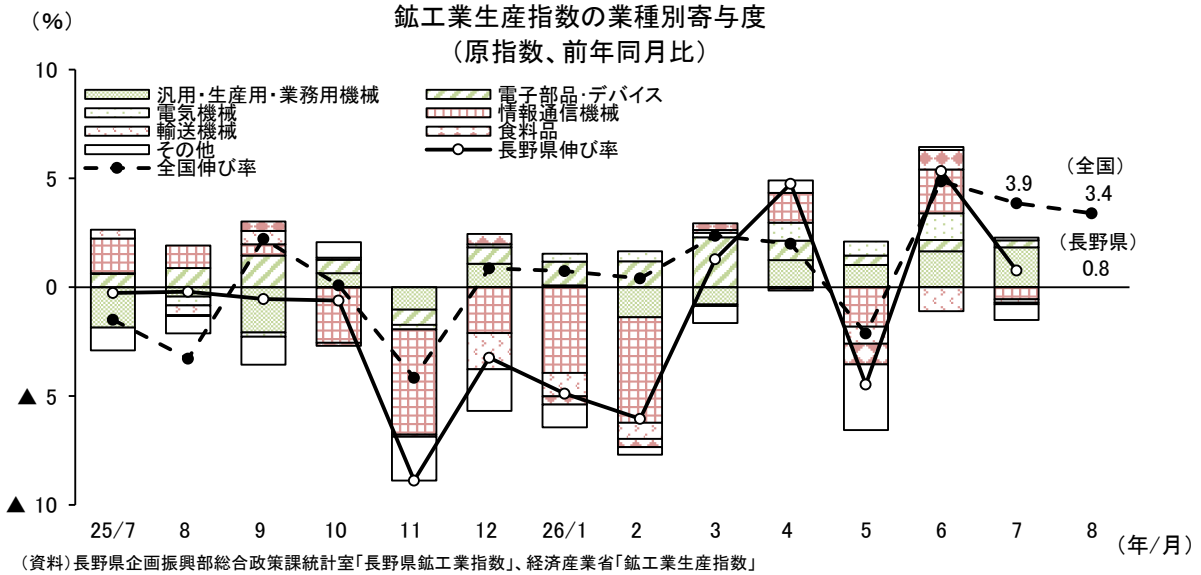
生産は持ち直している

・7月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比＋0.8%、季節調整済指数が前月比△1.3%となった。

・季節調整済指数は2カ月ぶりに前月を下回った一方、原指数は2カ月連続で前年を上回った。世界的に人工知能（AI）向けのデータセンター関連投資が増加する中で、サーバー関連部品や生産用機械などの設備投資関連にも増産の動きがみられることから、生産は持ち直している。

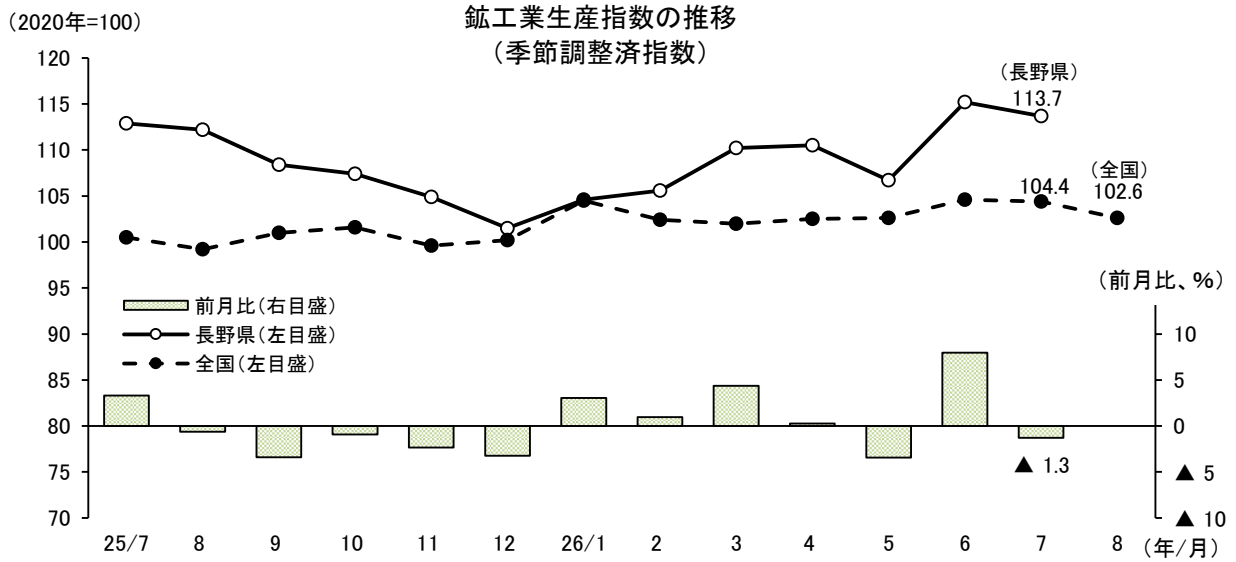
・主要業種別にみると、「情報通信機械」「輸送機械」などが前年を下回ったものの、「汎用・生産用・業務用機械」「電子部品・デバイス」などが前年を上回った。

鉱工業生産指数の業種別寄与度
（原指数、前年同月比）



（資料）長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」
（注）全国：26年8月分は速報値

鉱工業生産指数の推移
（季節調整済指数）



（資料）長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」
（注）全国：26年8月分は速報値

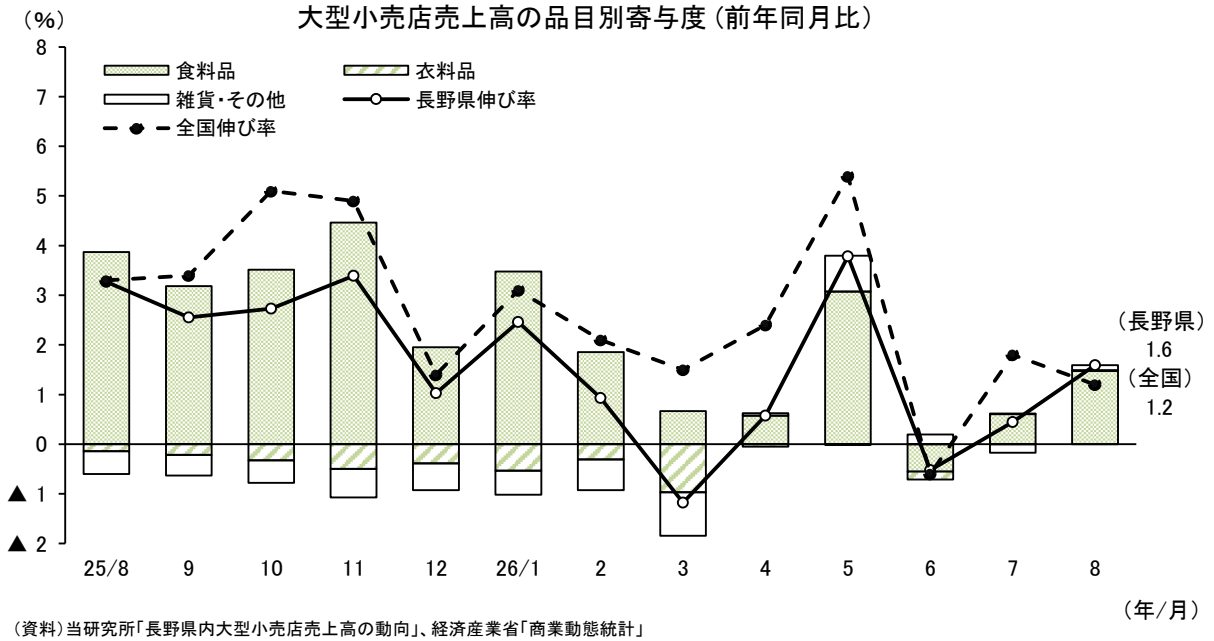
個人消費

大型小売店売上高は2カ月連続で前年を上回る

・8月の大型小売店売上高は、前年同月比＋1.6%（売場面積調整前）となり、2カ月連続で前年を上回った。食料品は、飲料や調味料等の販売価格の上昇などにより、同＋1.7%となった。衣料品は、気温の上昇により、季節衣料を中心に販売が持ち直し、同＋0.6%となった。雑貨・その他は、化粧品等が堅調で、同＋0.9%となった。

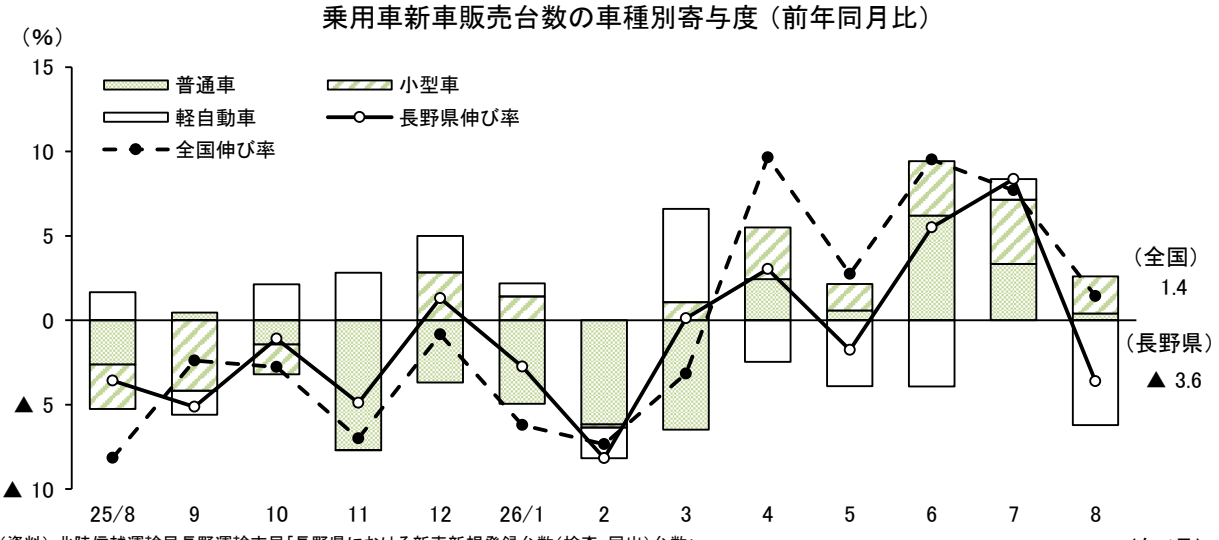
・8月の乗用車新車販売台数は、前年同月比△3.6%と3カ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると、普通車は同＋1.1%と5カ月連続、小型車は同＋11.7%と6カ月連続で前年を上回ったものの、軽自動車は同△13.6%と2カ月ぶりに前年を下回った。

大型小売店売上高の品目別寄与度（前年同月比）



（資料）当研究所「長野県内大型小売店売上高の動向」、経済産業省「商業動態統計」
（注）全国伸び率：26年8月分は速報値

乗用車新車販売台数の車種別寄与度（前年同月比）



（資料）北陸信越運輸局長野運輸支局「長野県における新車新規登録台数（検査・届出）台数」、
一般社団法人日本自動車販売協会連合会「車種別販売台数」、
一般社団法人全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売台数確報」
（注）普通車：3ナンバー車、小型車・軽自動車：5ナンバー車

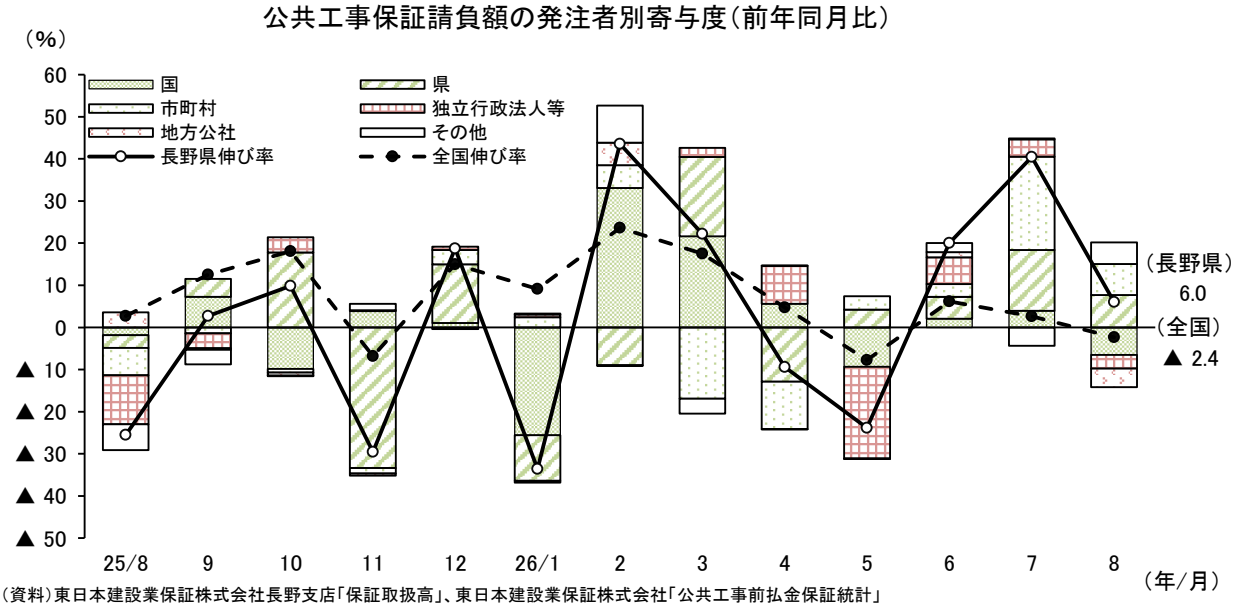
建設投資

公共工事保証請負額は3カ月連続で前年を上回る

・8月の公共工事保証請負額は、前年同月比＋6.0％の136億1,500万円となり、3カ月連続で前年を上回った。発注者別にみると、国が同△32.6％、独立行政法人等が同△91.8％、地方公社が同△80.0％と減少したものの、県が同＋34.8％、市町村が同＋15.9％、その他が同＋204.8％と増加した。

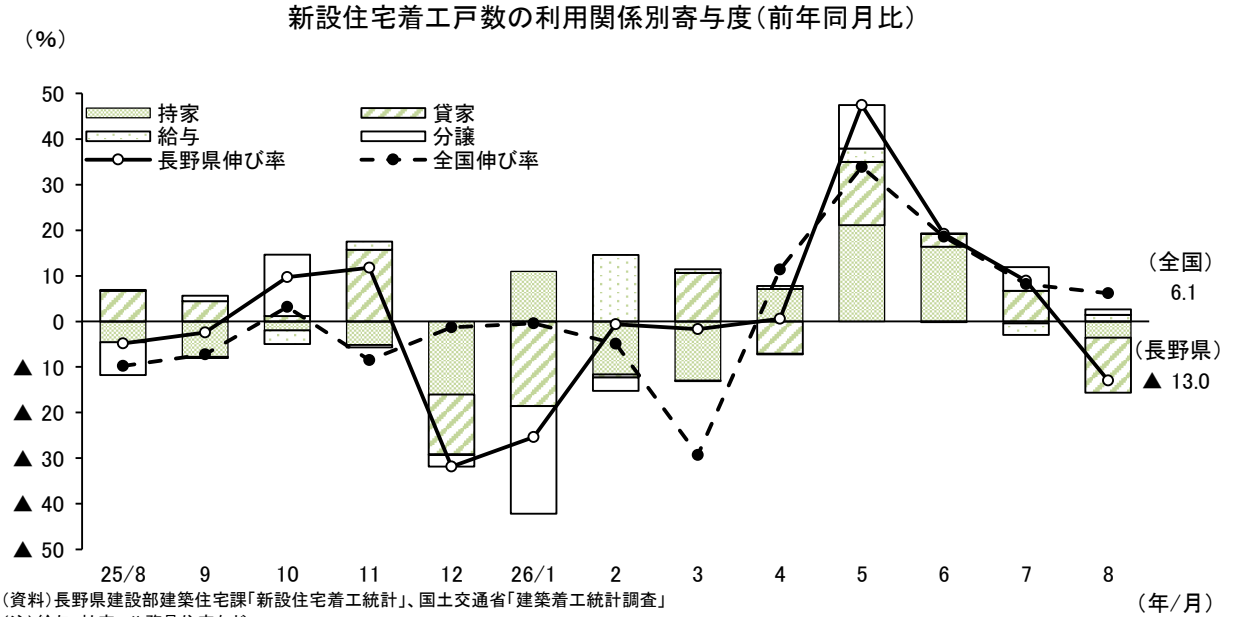
・8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比△13.0％の853戸と5カ月ぶりに前年を下回った。利用関係別にみると、給与が同＋350.0％、分譲が同＋12.5％と増加したものの、持家が同△6.8％、貸家が△32.1％と減少した。

公共工事保証請負額の発注者別寄与度（前年同月比）



（資料）東日本建設業保証株式会社長野支店「保証取扱高」、東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

新設住宅着工戸数の利用関係別寄与度（前年同月比）



（資料）長野県建設部建築住宅課「新設住宅着工統計」、国土交通省「建築着工統計調査」
（注）給与：社宅、公務員住宅など

雇　用

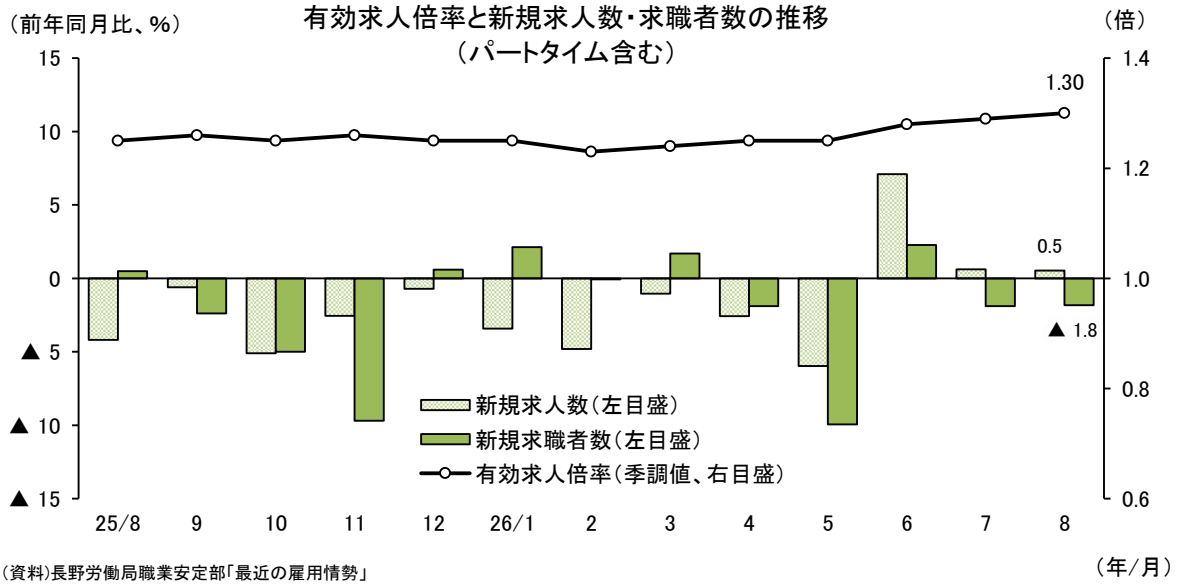
有効求人倍率は3カ月連続で前月を上回る

・8月の有効求人倍率は、前月比＋0.01ポイントの1.30倍となり、3カ月連続で前月を上回った。

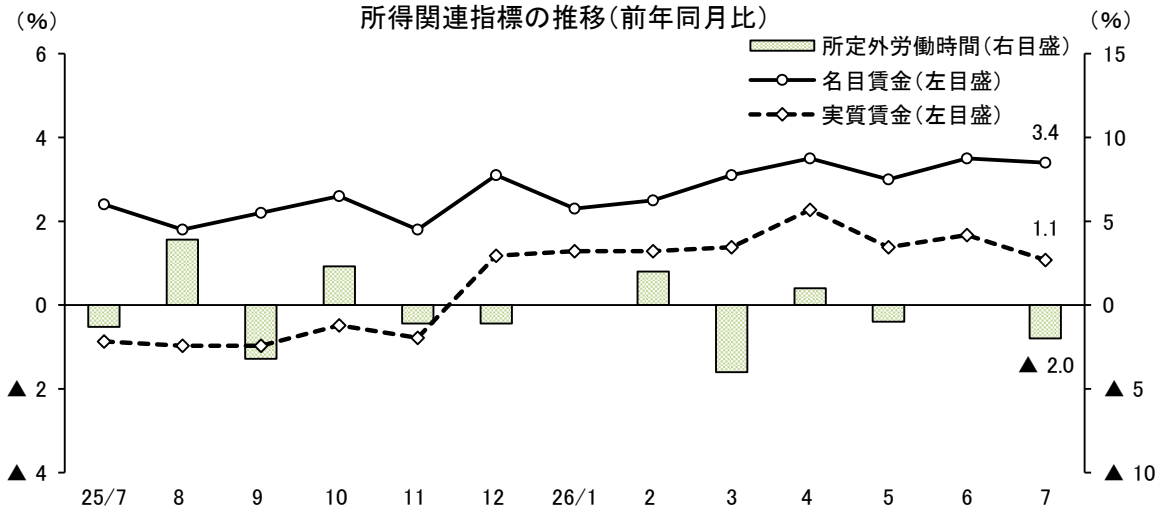
・新規求人数（全数）は前年同月比＋0.5%となり、3カ月連続で前年を上回った。このうち常用は同△2.0%、パートは同＋0.2%となった。主要産業別では、情報通信業が同＋28.3%、不動産業，物品賃貸業が同＋25.0%、製造業が同＋17.4%となるなど4産業は前年を上回ったが、卸売業，小売業が同△6.6%、医療，福祉が同△4.4%、宿泊業，飲食サービス業が同△4.4%となるなど8産業は前年を下回った。

・新規求職者数（全数）は、前年同月比△1.8%と2カ月連続で前年を下回った。

・7月の名目賃金は前年同月比＋3.4%と63カ月連続で前年を上回り、実質賃金は同＋1.1%と8カ月連続で前年を上回った。所定外労働時間は同△2.0%と、2カ月ぶりに前年を下回った。



（資料）長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」



（資料）長野県企画振興部総合政策課統計室「毎月勤労統計調査」

（注）1. いずれも従業員規模5人以上の共通事業所のみを集計

2. 名目賃金の前年同月比は、きまって支給する給与の実額比較による

3. 実質賃金の前年同月比は、名目賃金と長野市の消費者物価指数（持家の帰属家賃除く総合）から当研究所が計算

県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

地域別有効求人倍率は北信を除き前年を上回る

・8月の地域別有効求人倍率（全数）は、北信が前年同月比△0.03ポイントの1.19倍、東信が同＋0.08ポイントの1.35倍、中信が同＋0.07ポイントの1.33倍、南信が同＋0.08ポイントの1.31倍となった。

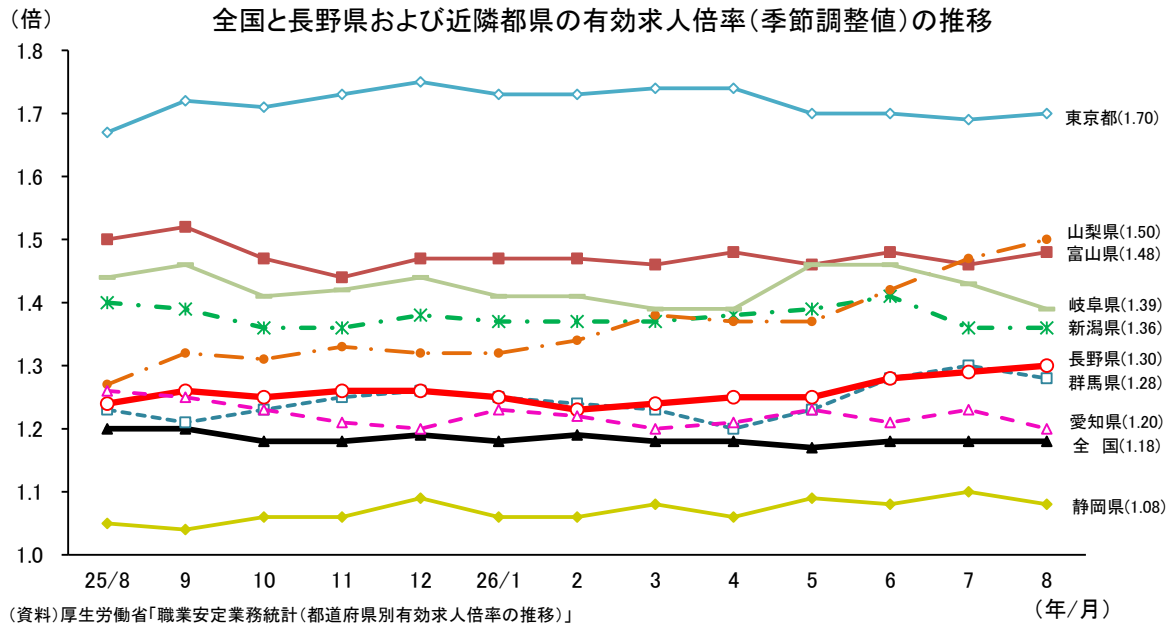
・職業安定所別有効求人倍率（全数）は、木曽福島が1.51倍と最も高く、次いで上田が1.37倍となった。

・長野県の有効求人倍率は71カ月連続で全国を上回り、順位は前月から2つ上げ13位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率（実数値）（26年8月）

地　域	北　信(1.19)（前年同月比▲0.03）				東　信(1.35)（前年同月比+0.08）		中　信(1.33)（前年同月比+0.07）			南　信(1.31)（前年同月比+0.08）		
職業安定所	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曽福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全　数	1.24	1.06	1.27	1.11	1.37	1.33	1.33	1.51	1.24	1.32	1.33	1.29
前年同月比（ポイント）	▲ 0.03	▲ 0.04	＋ 0.03	▲ 0.10	＋ 0.14	＋ 0.02	＋ 0.06	＋ 0.28	＋ 0.02	＋ 0.02	＋ 0.19	＋ 0.03
うち常用	1.12	1.03	1.10	1.03	1.25	1.29	1.13	1.41	1.13	1.26	1.13	1.20
前年同月比（ポイント）	▲ 0.05	▲ 0.04	＋ 0.01	▲ 0.03	＋ 0.08	＋ 0.00	▲ 0.04	＋ 0.22	＋ 0.02	＋ 0.02	＋ 0.12	＋ 0.04

（資料）長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」
（注）実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



（資料）厚生労働省「職業安定業務統計（都道府県別有効求人倍率の推移）」
（注）1. 新規学卒を除きパートタイムを含む
2. 長野県の近隣都県および長野県と経済規模、産業構造が類似している県